

大高高校同窓会 会報

やまびこ

(16期生 高橋一明氏 揮毫)

CONTENTS

- ◆本部だより……………P2
(同窓会総会/同窓生の集い/同窓会入会式/大高プレイバック他)
- ◆東京同窓会だより……………P4
(近況雑感/音楽ピヤで新年会/定期総会・新卒者激励会)
- ◆活躍する同窓生たち……………P6
○浜田直子(57期生、ピアニスト)
- ◆学校だより……………P7
(ありがとう平成二十一年<校長>/快拳!夏の甲子園青森県予選準優勝/旅立ちの前に)
- ◆シリーズ:歴史オブ下北人④…P7
○村林源助
～江戸時代の下北の出来事を記録～
- ◆平成21年度卒業生の進路決定先一覧…P10



耐久遠足、いざ出発!

巻頭あいさつ

明るい前途に向けて



第13代会長 小島 勝義
(13期生)

この冬は、ここ数年の中では積雪が多く、雪かきで体が鍛えられる日々が続いており、やはり下北は雪国であることを実感している今日この頃であります。

今年度は政権交代が実現したこと、従来のさまざまなシステムが見直されています。先行き不透明な社会情勢の中に飛び出す卒業生の皆さんにとっては、不安を抱えながらの船出になると思います。

日本全国には一万四千名を超える会員が、各方面で活躍しています。新卒のフレッシュな若者も、社会の荒波にもまれながら頑張っているベテランも、「晋崎の波 しずまりて…」を歌うことができる仲間同志です。困った時、悩める時には、ぜひ先輩会員を頼ってください。また、既会員の皆さまにおかれましては、新入会員の皆さまを、暖かく歓迎してくださるよう、ご協力方よろしくお願い申し上げます。

三年前に入学して以来、日夜勉学

や部活に励み、仲間と将来や悩みについて語り合い、耐久遠足・大高祭・体育祭などでエネルギーを爆発させ、青春時代を突っ走ってきたと思います。大高に入学したからこそ過ごすことができた、充実した三年間だったのではないのでしょうか。豊かな人間性、たくましい精神力が鍛えられた皆さんの、輝かしい前途を応援しています。

現在、地元と東京の二地区で同窓会活動を行っております。母校を離れると、日々の忙しさに追われて、同窓会の存在そのものを意識できない仲間も多いかと思えます。

会の活動について、一万四千名を超える全会員に、逐一報告できれば良いのですが、会報「やまびこ」発行のみという現実があります。ネットやメールなど、文明の利器を活用し、ご意見等をお寄せください。

毎年、六月は東京で定期総会・懇親会、八月は地元で「同窓生の集い」が開催されます。これらは新卒者激励会を兼ねています。同窓生の皆さま、ぜひ参加してください。



地元同窓会役員も応援に熱が入ります。(夏の甲子園青森県予選決勝戦にて)

本部だより

同窓会総会

◎期日 6月16日(火)午後6時30分
◎場所 プラザホテルむつ

約30名あまりの会員の出席のもと、今年度の事業について審議されました。懇親会も催され、今後の同窓会の発展のために、ざっくばらんに語り合い、楽しいひと時を過ごしました。



坂本常任理事が議長を務め、とどおりなく議事を終えました。同窓生の集いの運営に関して、活発な意見交換が行われました。

総会のあとは、和やかな雰囲気の中に懇親を深め合いました。



同窓生の集い
〜新卒者激励会〜

◎期日 8月15日(土)午後6時
◎会場 プラザホテルむつ

開催日を固定して三年目になり、参加された会員たちには「8月15日は大高同窓生が集う日」というイメージが定着しつつあるように思います。

総勢110名あまりの会員が集まり、大いに盛り上がりました。今年は地元に住んでいる、かつての恩師の先生方にも広くお声をかけました。出席できない先生方からは心温まるメッセージをいただき、懐かしさを感じつつ、学生時代の話に花を咲かせていました。今年も多くの新卒者が参加し、約60名あまりのフレッシュマンが集いました。



夏の甲子園県予選で準優勝に輝いた硬式野球部から、応援いただいた先輩方に挨拶がありました。左から和田投手、二ツ森外野手、工藤監督、中山主将、坂本部長。

懐かしい恩師で、昭和52年から平成4年まで本校で教鞭をとられた金澤一朗先生がおいでいただきました。(右写真：左から一人目)



アトラクションでは、地元を拠点に活躍しているシンガーソングライターの板橋かずゆきさんのミニライブで盛り上がりました。



今年の新卒者も元気一杯でした。



今年のフィナーレも、参加者全員が輪になって、校歌の大合唱で一つになりました。

大高プレイバック

耐久遠足タイムスリップ

1975



1985



1995



2005



平成22年度の 主な日程決まる

【本 部】

○ 総 会

- ・期日 平成22年 6月上旬
- ・会場 プラザホテルむつ
【JR下北駅そば、TEL0175-23-7111】

○ 同窓生の集い～新卒者激励会～

- ・期日 平成22年 8月15日(日) 18:00から
- ・会場 プラザホテルむつ

【東 京】

○ 東京同窓会総会～新卒者激励会～

- ・期日 平成22年 6月26日(土) 15:00から
- ・会場 グランドヒル市ヶ谷
【JR市ヶ谷駅そば、TEL03-3268-0111】

.....

詳細については、学校HP等で後日
お知らせします。

同窓会入会式

◎期日 2月28日(日)

午前11時40分

◎場所 大湊高校第一体育館

3月1日の卒業式に先立ち
同窓会入会式が行われ、学
舎を巣立つ3年生183名の新
員を仲間に迎えました。
役員の方々も参加し、厳
粛かつ晴れやかな雰囲気の中
おこなわれました。
期待と不安を胸に新しい世
界へ旅立つ新会員たちを、同
窓会では応援しています。



今回入会した新卒者たちの3年前(入学式のようす)

東京同窓会だより

近況雑感

東京生活四十年



会長

佐々木

彦藏 (7期生)

一月二十八日、浜松町の「メルパルクホール」で『津軽弁の日』があると知り、田名部高校東京同窓会長の澤畑進さんを誘って前売券(4千円)を手に入れた。

さて当日、約千四百席がほぼ満席。青森県東京同窓会連合会加盟の各校同窓会の顔見知りの役員が何人かいた。左隣の席が、野辺地高校の同窓会長の横濱征四さん(立教大学教授)だった。

郷土の名士、伊奈かつい以下、津軽出身の芸達者な面々の軽妙洒脱なやりとり、満場、爆笑に次ぐ爆笑でとても楽しいひと時であった。

でも、下北生まれの自分には、純粹な津軽弁の中に、意味の分からない言葉が結構あった。また、自分で完全に忘れてしまっていた方言のいくつかに出会うこともできた。

昭和四十二年に上京して以来四十年余、一度も使ったことのない言葉である。いわく「あぐど」「なづぎ」「わだきや」「えふりこぎ」「かだらせろ」・・・舞台の上で、独特のアクセントとイントネーションで発せられるこれらの言葉に、限らない懐旧と故里への温かい思いが蘇ってきた。



ふるさと青森を懐しむ人たちが、大いに盛り上がりました。

一昨年春から浦安で町内会長をしている。人口十六万人、市内に八十の町内会があるが、私の美浜地区は、約二百世帯の小さな町内会である。二年前のある夜、輪番で回ってくる新役員の初会合に出た家内から、「くじ引きで会長に当たったけどどうする?」と、携帯電話が掛かってきた。当方、晩酌でいい気分になっていたので、軽い気持ちで「いいよ、いいよ」と答えてしまった。

新年度最初の役員会に出てみて驚いた。十一班二十二名の役員、男は自分と千葉県弁護士会の会長をされたHさんだけ、あとは全部女性。まるで「婦人会」の会合に出たみたい、と挨拶して笑いを取った。

この町内に住んで満三十年になるが、

地元のことを何も知らなかったことが分かった。三代前の町内会長がインド人のMさんで、国連大学学長室長をされた有名な方だとか、御茶ノ水の教授をしているAさんの奥さんはフランス人で、彼が東大を出てハーバードに留学している時に、ソルボンヌを出て留学してきた奥さんと知り合って熱愛結婚したとか。役員の中でもひとときわ目立つスラリとした美女は、元日航のスキューバデスだったとか・・・情報通の「婦人会」の皆様のおかげでいろいろなことを知り、沢山の交友ができた。

去年の春、会長に再選されたが、私を除き二十一名の役員全員が交代、今度も男性は一人だけだった。

五十五年前、大湊高校を卒業した時は、家の商売(和菓子屋)を手伝っていて、就職も内定(総監部)だけで、自分が将来どこでどうするのか、まったく見当がつかなかった。

就職、結婚、子育て、転勤、親との永別、闘病・・・人並みの人生を送ってきた。時の流れるまま、その時その時、最善を尽くせば、神様はちゃんと見ていてくれる。古希を越えた己の体験からくる哲学である。

この春、卒業して社会に出る人や進歩する人たちに、この先どんな人生が待っているのか、誰にも分からない。まさに前途洋々、いや前途多難かもしれない。いずれにしても、次々と生起、展開するであろう眼前の問題に、その都度、最善を尽くすしかない、と思う。

(22・1・30記)

東京同窓会 定期総会・新卒者激励会

◎期日 6月27日(土)午後3時 ◎場所 グラントヒル市ヶ谷

今年も大勢の仲間達が東京をはじめ、関東一円から大集合、和やかなひと時を過ごしました。同窓会本部や学校関係の方々も遠路駆けつけてくれました。

今回は、この春の卒業担任が全員出席していただき、まだ新しい生活に馴染むために奮闘中の新卒者たちにとっては、大きな励みになったと思います。

同窓会本部からは小島会長、佐々木監事(新後援会理事長)、小島顧問(P.T.A会長)、岩崎事務局長が出席しました。



新卒者もベテランも話に華が咲き、大いに盛り上がりました。そして、それぞれ来年度の再開を誓い合っていました。



上質で本格的な音楽と、おいしいワインで会場の雰囲気は最高潮へ。



今年の新年会も、多くの仲間が集い、和やかなうちに時間はアツという間にすぎました。



東京同窓会が今年も盛りあがるよう、皆がんばります。

音楽びやで新年会

「垣根の垣根の 曲がり角 たき火だ たき火だ 落葉たき・・・」昔懐かしい唱歌『たき火』が「今月の歌」。お客さん全員で大合唱。一月十六日夜、銀座のど真ん中、『音楽ビヤプラザライオン』での東京同窓会有志による新年会である。ソプラノ2、メゾソプラノ1、テ

ノール1の4人の歌手が今晚の出演者。日によって男性歌手がバリトンやバスに変わる。そのほかヴァイオリン、チェロ、クラリネット、フルートなどが出番の日もある。夕方6時半から10時過ぎまで、音楽料千五百円払うとオペラ、カンツオーネ、シャンソン、唱歌などの名曲をたつぷりと聴く事ができる。隣のテーブルに小学校4〜6年生ぐらいの男の子二人と両親、祖父母らしき6人組がいた。曲の合間にその子たちがステージの椅子に座り、「ハッピーバースデー」の歌で満場か

ら祝福された。土曜日なので誕生日に連れてきたらしい。筆者、この店に何年も通っているが、子供連れを初めて拝見。とても好ましく、羨ましく思われた。全部で百席ほどの店内、各テーブルにリクエストカードがおかれ、好きな曲をリクエストできる。この夜は、「トスカより・星は光ぬ」「おおシャンゼリゼ」「ハバナラ」などが歌われ、ピアノ独奏はショパンの「ノクターン」が流れた。十数名の参加者だったが、初めて田名部高校の澤畑会長にも入って頂いての銀座での新年会。飲み放題コースのワインやカクテルと素晴らしい音楽に満たされ歓談三時間、十分に旧交を温めることができた。(H)

【電話03(3573)5355】



活躍する同窓生たち



浜田直子
(平成16年卒業、57期生)
ピアニスト

高校時代は陸上競技部で青春を燃やし、現在はプロのピアニストを目指して、音楽活動に全力投球している浜田さん。活躍の様子と、これまでのエピソード、そして、これからについて聞いてみました。

Q プロの音楽家を志したきっかけは何ですか。

A 正直なところ、「きつかけ」というものはありません。ただ、ピアノが好きで弾き続けていた結果、いつの間にかプロを目指していました。そして、ピアノが好きという理由だ



陸上で鍛えた精神力・体力で、一流ピアニストへの階段を一步步つかけ上っています。

けではなく、今まで応援してくれ、今もなお応援し続けてくれる恩師や家族に、恩返しをしたい、喜んでもらいたい、という思いも、プロを志す理由の一つでもあります。

Q 現在はどのような音楽活動を展開しているのですか。

A 昨年は大学を卒業したばかりということもあり、地方での新人演奏会がメインでした。その他に、地元むつ市では「浜田直子デブューコンサート」も開かせていただきました。普段は演奏だけではなく生活が成り立たないため、歌や楽器の伴奏のお仕事の傍ら、法律事務所でもアルバイトをしながら、生活をしてい

ます。

Q 高校時代はどのような生徒でしたか。また、特に思い出に残っていることは何ですか。

A 高校時代はとにかく元気で、クラスの友達や部活の友達といつもふざけて笑って過ごしていました。正直、勉強はあまり得意な方ではなく、授業に対する姿勢も不真面目でした。当時は部活を頑張っていたけれどいいでしょ、という考えでしたが、大学の受験勉強の時にはとても苦勞をしました。思い出は、やはり部活動です。部活は今でも大切な思い出であり、財産です。



これからも一生懸命がんばります。みなさまの町で演奏する際は、ぜひお越し下さい。

Q 高校時代は陸上競技部でがんばっていたそうですね。

A はい、陸上は小学校4年生から高校3年生までずっと続けていました。陸上を始めた頃から、仲間と恩師には恵まれてきました。そのお陰で中学校では3種競技で全国中体連、高校では7種競技でインターハイにも出場できました。ただ、結果を出すことが大事ではなく、どれだけ本気で取り組めたかが重要なのだと思います。それを教えてくれたのが陸上でした。

Q プロとして活躍するために、一番苦労していること、心がけていることは何ですか。

A 心がけていることは、どんな時でもどんな人にも、誠実であることを心がけています。誠実な仕事をしなければ、次につながりません。苦勞

は特にありませんが、アルバイトとピアノの練習の両立は少し難しいです。ただ、全てのことに意味があり、今の生活があるのだと思えば、アルバイトは復職、ピアノは転職、とある程度割り切っています。

Q 今後の活動予定と、今春卒業する後輩へメッセージをお願いします。

A 今後の主な活動予定は四月に山形の武蔵野音楽大学同窓会演奏会、歌とトランペットの伴奏で出演させていただきます。そして六月は青森の武蔵野音楽大学同窓会演奏会でピアノのソロで出演させていただきます。私はまだ演奏家の卵ですが、いかなる時も頑張っていれば、いつか結果は出て、誰かが評価してくれるようになります。今春卒業する皆さんには、それを信じてそれぞれの道を突き進んでほしいと思います。

日本全国で、そして地元下北でも演奏する機会があるようです。これから一流ピアニストへと羽ばたこうとしている仲間を、ぜひ同窓会一丸となって応援していきましょう！



校 学 だより

ありがとう平成二十一年



大湊高校 校長 工藤 哲也

五月二十四日

陸上部男子が県高校総体で、堂々の連覇を果たした。下北地域の子供たちが、一心不乱に練習に打ち込み、自らレベルアップを図り、青森山田高校を下しての優勝は、見事の一語に尽きる。その勢いは、奈良で行われたインターハイにもつながった。沼辺君が砲丸投げ三位、円盤投げ四位という快挙を達成した。また、四百メートルリレーでも大高生が新記録を出した。大舞台で遺憾なく力を発揮できる伝統の力を実感した。

六月二十七日

大湊高校東京同窓会に参加した。

大学教授や税理士など社会の一線級で活躍している方々が多数出席されていた。自らが歩んできた人生に対して、確たる自信を持っていることが、言葉の端々に感じられた。まさに伝統の重さであった。現在、本校の六名の教員が大湊高校卒業生であり、また部活動のコーチとしても多くの卒業生が支えてくれている。地域経済に係わっているいろいろな方とお会いするが、本校の卒業生が多く、まさに下北地域の行政、経済の中核を担っていると感じさせられた。

七月二十八日

いよいよ、甲子園予選決勝の日が来た。相手は青森山田高校だ。和田君のホームランで先制した後逆転され、一対四で迎えた最終回、無死満塁から一点差に追い上げる驚異的な粘りをみせた。この粘りこそ、まさに伝統で培われた大高魂そのものだった。君たちの持っている能力、強さはすごい、と言いつつ続けてきた。それが証明された瞬間だった。ひたすらうれしかった。最後までひたむきに戦う姿勢に、同窓生を始めとする地域の方々からの賛辞が止まなかった。

村 林 源 助

『江戸時代の下北の出来事を記録』

教 頭 瀧本 壽史

シリーズ：ヒストリーオブ下北④

『原始護筆風土年表』（げんしまんびつふうどねんぴょう）という本をご存じでしょうか。江戸時代の下北の歴史をひもとく上で、最も基本的で重要な資料として知られているものです。これまで書かれた下北関係の歴史書で、この『年表』の記載内容を引用していないものはほとんど無いといっても過言ではありません。実はそれほど下北に住む私たちにとって身近な資料なのです。全五二巻のうち一巻と四巻が失われていますが、寛永五年（一六二八）から文政元年（一八一八）まで、年々の出来事が順に記録されています。著者は村林源助（むらばやし・げんすけ、一七四八〜一八二二）。大畑の村林家の二代目。号を鬼工（きこう）と称しました。村林家は近江（滋賀県）出身であり、大畑で商業に従事した、いわゆる近江商人の系統にありました。残っている五〇巻の『年表』は現在も村林家が所蔵しています。青森県文化財保護協会からみちのく双書の一つとして刊行もされています。

源助の生きた時代は、これまで紹介した中川五郎治などとほぼ同じ頃、下北が最も蝦夷地（北海道）との関係を深め、そして下北地域が政治的にも経済的にも大きな時代の流れの中にいた時代でした。『年表』は源助が大畑の

宿老（町内の取締りに当たった年寄役）を務めていた三〇代から五〇代に書かれたものであり、特にこの頃の記事は、同時代の記録ということもあり、下北の様子が高い信憑性をもって私たちに迫ってきます。

源助は、裕福な家庭の中に育ち、多くの学問を身に付けました。二五歳の時には江戸・上方（大阪方面）にも旅行し、多くの知的刺激を受けて帰ってきています。『年表』からは和歌・俳句・謡曲・漢学・蘭学・天文学・本草学（薬学）など多彩な方面に造詣が深かったことが読み取れます。これらの知識がどのようにして得られたかは大いに興味のあるところです。具体的には、書物の入手ルートや人的交流についてです。これらを近年では「知のネットワーク」と呼んでいます。源助のそれを探ることは、下北の文化ネットワークを探ることにつながります。その意味でも、源助は下北に大きな遺産を残した人物と言えます。



『年表』
(右から二、三、五、六、七巻)

瀧本教頭は、平成19年春に本校に赴任しました。教員生活のスタートは大畑高校であり、その後県立郷土館に勤務していた時には下北について調査を重ねています。私たちの郷土「下北」に造詣が深い先生です。

快挙！夏の甲子園青森県予選準優勝！ 下北から甲子園は「夢」から「目標」へ！

大活躍で下北を、そして全国の同窓生達を熱くさせてくれた、硬式野球部の中山拓也主将（34HR）にエピソードを聞きました。

Q 初の夏の甲子園青森県予選準優勝おめでとうございます。感想をお願いします。

A ありがとうございます。自分達が準優勝という結果を残すことができたのもみなさんの支えがあったからです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。三年間ありがとうございました。

Q 手に汗握る試合の連続でしたが、今回の快進撃の要因は何だったのでしょうか。

A 自分達が一試合一試合勝ち進んでいったのは、スタンド、ベンチ全員が甲子園へ行くんだという気持ちで一つになれたからです。決して自分達だけの勝利ではありません。

Q 野球に明け暮れた三年間だったと思いますが、一番思い出に残ることとは何でしょうか。

A 一番の思い出は、準優勝できたことです。監督さん、大先生をはじめめとするスタッフのみなさん、チー

ムのみんな、先生方、保護者の皆様本当にありがとうございました。

Q 後輩たちへメッセージをお願いします。

A 大高野球が目指しているのは、準優勝ではなく「下北から甲子園」です。昨年の準優勝という結果に恥じることなくこれからの練習を頑張り、今年こそ下北から甲子園を達成してください。



表彰式で賞状を受け取る中山主将（選手右）

下北から甲子園!!



硬式野球部監督
工藤 公治

このフレーズをよく口にするようになってから早いもので30年の月日が経過しようとしています。最初は夢のような目標であったものが、「あと1歩、あと1本、あと1点」のところまでいききましたが、惜しくも達成することはできませんでした。ですが、扉は開かれたことは事実ですし、何よりも現実に近いことは確かです。これも、同窓生の皆様をはじめ、学校関係者、地域の方々のご支援やご協力の賜物だと思っています。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、第91回全国高等学校野球選手権青森大会で下北初の準優勝を収めることができました。うれしい気持ちもありますが、それ以上に「甲子園にいけなかった」「優勝できなかったこと」が本当に悔しく思う大会でした。この大会では4つのことを心に置き戦いました。「敵は己」自分との心と戦い、そして勝つことによつてはじめてプレイが成り立ち、相手と戦う権利がうまれる。「見えない力」今まで支えてきてくれた親をはじめめたくさんの方々に感謝の気持ちを

持ち、みんなの願い・想い・意地・執念などの精神で戦う。「シンプルに！」今までもやってきたことを普通にあたりまえに行う。最後に「もう一押し、もう一粘り」攻撃でも守りでも、あきらめたり妥協したりせず、「これでもか！」「あきらめない！」という気持ちでプレイする。以上のことを選手に、そして自分に言い続けながら戦いました。このことを実践できたことがこのような結果につながったのではないかと思います。結果を考えると、今を必死に頑張ることが大切なことだと再確認できた大会でした。

最後に歴代の監督や部長先生方をはじめ、同窓生の皆様方が中心になって築いてきた本校野球部ですが、現在は約50名の部員とスタッフ5名で、人間力野球の実践と激しい勝負の世界において最高のパフォーマンスを発揮できることを目標に、日々練習に励んでおります。一昨年に本校は創立60周年を迎えました。歴史と伝統の重みをしっかりと受け止め、今後さらなる飛躍を遂げるために、ここからが本当のスタートと思いい、今度は「下北から全国制覇!!」という目標に変えて今後も頑張っていきたいと思えます。どうか今後本校を、そして野球部に対して、暖かいご支援ご鞭撻をよろしくお願いします。



旅立ちの前に

この春、わが同窓会の仲間入りをする卒業生です。今の思いを語ってもらいます。

34HR

三年四組 長内 麻希

三年間本当にあつという間でした。いろいろな思い出が頭の中を駆けめぐります。正直はじめてこのクラスのみんなと対面したときは不安でした。人文系列とスポーツ系列の二つが混ざったクラスで全くまとまりがなく、担任の傳法先生をはじめは困惑したのでは…。

しかし、34HRはやるときはやるクラス!!ムードメーカー的な存在が非常に多く、彼らを中心にクラスはどんどんまとまっていきました。行事があれば必ず頂点を目指し、みんなで協力し、一生懸命頑張りました。その結果、二年生の時は、球技大会女子ドッチボール優勝、三年生になってからは大高祭フアッションショー部門で審査員特別賞、球技大会男子バレーボール優勝という素晴らしい結果を残すことができました。



優秀賞作品と本人 (三重大会にて)



一つの輪になって一致団結! 34HR (体育祭にて)

部活動は三年間書道部に所属していました。毎日の練習を大事にし、顧問の矢越先生の素晴らしい指導のおかげで二年連続全国大会出場を果たすことができました。昨年の三重大会では優秀賞をいただくことができ本当に嬉しかったです。矢越先生には感謝の気持ちでいっぱいです。ちなみに、書道部は今部員が一人しかいません。誰か入って下さい。お願いします。

このように本当に充実した高校生生活でした。毎日さわがしく明るい四組。そして傳法先生。ありがとう。大高に入学して、みんなに会えて本当に良かったよ。またあいましよう。

長内さんは、書道部で目覚ましい活躍をし、クラスでは明るく朗らかな人から、皆から信頼される存在でした。卒業後は大学に進学して、さらに勉学に励みます。卒業生一八三名全員の今後の活躍を同窓会では応援しています。

平成21年度卒業生の進路決定先一覧

平成22年 2月22日現在

○ 国公立4年生大学 (9名)			
弘前大(人文1・理工3)	岩手大(人文社会・工)	青森公立大(経営経済)	青森県立保健大(健康科学2)
○ 私立4年制大学 (39名)			
青森大(社会)	東北生活文化大(家政2)	日本大(工学・理工)	埼玉医科大(保健医療)
青森中央学院大(経営法学2)	東北福祉大(健康科学・総合福祉2)	桐生大(医療保健)	埼玉学園大(人間)
東北女子大(家政)	尚絅学院大(総合人間科学)	玉川大(農)	城西大(経済・現代政策)
弘前医療福祉大(保健2)	仙台大(体育2)	明治大(商)	富士常葉大(総合経営)
弘前学院大(看護)	国際武道大学(体育)	明星大(経済)	大正大(文)
札幌学院大(経営・法)	秀明大(学校教師)	東海大(体育)	大東文化大(国際関係)
札幌国際大(スポーツ人間)	東都医療大(ヒューマンケア)	湘南工科大(工)	八戸工業大(工)
盛岡大(文)	日本工業大(工)		
○ 国公立短期大学 (24名)			
函館大谷短大(こども)	山形県立米沢女子短大(国語国文学)	川口短大(こども)	東京女子体育短大(保健体育)
青森中央短大(看護:2)	北翔大学短大(人間総合)	帝京短大(生活科学)	文化女子大学短大(服装)
" (食物栄養)	八戸短大(幼児保育・看護)	鶴見大学短大(保育)	仙台青葉学院短大(看護)
" (幼児保育4)	青森明の星短大(子ども)	秋田公立美術工芸短大(産業デザイン)	
函館短大(食物栄養学2)	埼玉女子短大(国際コミュニケーション)	日本体育大学女子短大(幼児教育保育)	
○ 高看・医療系専門学校 (5名)			
青森歯科衛生士	東北文化学園	早稲田医学院歯科衛生士	仙台医療福祉
○ 各種専門学校 (41名)			
東京商科学院	仙台ヘアメイク(3)	青森調理師	大原簿記公務員(函館校)
赤門自動車整備	仙台デザイン(2)	八戸理容美容(2)	ホスピタリティーツーリズム
仙台医療福祉(2)	八戸工科学院(2)	八戸調理師	国際ペットビジネス
東京誠心調理師	経専北海道どうぶつ	山野美容	日本工学院八王子
東京ホテルビジネス	新宿調理師	町田・デザイン	東京YMCA社会体育・保育
東京総合美容	仙台大原簿記公務員(2)	埼玉ベルエポック製菓	北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ
日本デザイナー芸術学院仙台校			
○ 公務員・自衛隊 (20名)			
自衛隊一般曹候補生(海上10)	横浜町消防職	東通村消防職	青森県警察官B
自衛隊2等(海士3、陸士1、空士1)	むつ市消防職	佐井村消防職	
○ 管内就職 (13名)			
㈱シエルビー(2)	㈱川内ファーマシー(2)	野村建設㈱	㈱下北測量
㈱みちのく銀行	みどりがおか歯科クリニック	養護老人ホーム釜臥荘	㈱丸勇森川商店
社会福祉法人青森社会福祉振興団	社会福祉法人三恵会	むつ観光ホテル㈱むつグランドホテル	
○ 県内就職 (7名)			
青森総合警備保障㈱(2)	日本原燃㈱	スーパードラッグアサヒ(株)横浜ファーマシー	㈱丸大サクラ薬局
十和田観光電鉄㈱	バンドーウエルフェアグループ㈱		
○ 県外就職 (10名)			
㈱ワークステーション	㈱朝日	医療法人社団健医会西砂歯科医院	農業生産法人(有)美馬農場
東京エアポートレストラン㈱	㈱聡建	㈱銀座田中屋	㈱ユーラスエナジージャパン
㈱花びしホテル	㈱ギャップ		
○ 就職進学 (4名)			
ampm	富士見ヘルスプラザ・K-キャビン	ニューフジヤホテル	人形町今半

※ 学校・企業名等は順不同です。「株式会社」「有限会社」「財団法人」は「(株)」「(有)」「(財)」と省略しています。

インフォメーション

皆様の声をお寄せください

同窓会報の紙面をさらに充実させるために、ぜひ会員の皆様から話題をお寄せください。

- 会員に関する心温まる話題
- 活躍している会員のようす
- 特集してほしい企画
- 同窓会にちなんだなつかしい写真 etc

会報の配布にご協力願います

現在、会報はいろいろな方法で配布しています。しかし、「えっ、こんな会報があったの?」という声をよく耳にします。配布にご協力いただける会員の方は、ぜひ事務局までご一報ください。

「現在の主な配布・閲覧方法」

- 会員・生徒保護者等を経由
- 市役所・町村役場の閲覧コーナー
- 同窓会の各会合・イベントで配布
- 学校HPで公開 etc

【お問合せ】

大湊高校同窓会事務局

- ★ 電話 0175(24)1244
- ★ FAX 0175(24)2680
- ★ メール syogai-omn.h@asn.ed.jp